
第四回 ～未来このはな～二代目ラウンドテーブルを開催しました

第四回 ～未来このはな～二代目ラウンドテーブル（以下「ラウンドテーブル」と呼ぶ）が平成29年7月13日（木曜日）午後7時から此花区民ホール第1会議室にて開催されました。

このラウンドテーブルは、生活の中で「してみたいこと」をテーマに自由にアイデアや意見を出し合う場です。年齢や性別、肩書は一切関係なしに、此花をよりよくするために何か話そう。何か語ろう。という構想で行っています。

毎月第2木曜日に此花区民ホールにて開催され、今回は12名の方にお集まりいただきました。

ラウンドテーブル終了後には毎回、参加者同士の情報交換や連絡先交換が行われます。ラウンドテーブルは月1回の開催ですが、知り合ったメンバー同士が別途集まり、交流しているケースもあります。毎回参加できなくても結構ですので、ご興味がある方はぜひ一度ご参加いただきたいと思います。

次回のラウンドテーブルは8月10日（木曜日）午後7時から此花区民ホール第1会議室にて開催されますので、皆さんふるってご参加ください！

今回のラウンドテーブルについて、参加者から進行役の立候補者を募ったところ、特に希望者がおられなかったため、此花区在勤のAさんに進行役をお願いしました。

今回のラウンドテーブルの内容(抜粋)は以下の通りです。

○参加者の自己紹介が終わり、西九条を盛り上げたいというBさんの話から始まりました。会話を抜粋しています。

A 「西九条町おこし計画ということで、西九条をどういう風に盛り上げたいとか、どんなことをしたいとか、どんなことをされているというのがあったら教えていただきたいです。」

B 「はい。よろしくお願いします。うちの会社がもともと不動産の会社をしております、その新しい事業としてゲストハウス、宿泊施設っていうのを西九条に今年の二月に建てまして、そこからちょっとずつお客様も増えている感じなんですけれども、ターゲットとしては海外のお客様が七割くらい今いらっしゃいます。その方々に、うちのゲストハウスの情報をアピールする時に、うちの情報をアピールしてうちのゲストハウスに遊びに来るといいうのでは力が足りないな、というところが多々ありまして、せつ

かくこの町に遊びに来ているのに、ウチに泊まったらそのまま難波に遊びに行ったりだとか、梅田に行ったりだとか、神戸に行ったりというお客様がすごい多いんですね。それを見てる時に、自分としてはずっと此花に住んできて、この西九条という町にも面白い店もあれば、昔ながらの店もあれば、というので、雰囲気としてはすごい魅力がある町だと個人的に感じていて、そこをもっともっと前に押し出して西九条という町、此花っていう町を武器としてウチのゲストハウスを一つのツールとして売り出していけたら、町も喜ぶし、ウチにとっても嬉しいし、そこにお店を持っている方々もみなさんが喜ぶような形になるんじゃないかな、という希望を持っているんですね。その最初のきっかけとして出来たウチのゲストハウス、集客力はめちゃくちゃあるんで、生かして盛り上げていきたいという次第です。」

C 「作っていただいた資料の説明を言っていた方がいかなと思います。」



B 「僕個人が見た西九条の魅力の分析をやった時に、交通が便利であるとか、並々ならぬ下町感というか、難波や梅田に近いのにめちゃくちゃ下町感があるじゃないですか、そういったところも武器やし、それと似たような感じなんですけれども、街並みも昔ながらのようなイメージもありますし、居酒屋さんもすごく多いです、何よりもユニバが近いです。これは十分西九条の武器になり得るのではないかなと思って資料に書きました。逆に弱みがあるかな、と考えた時に、話題性になり得るものがあるのに、それを発信できていないので、これといった武器がないということとか、あとどうしても西九条ってどういうところかと聞くと、乗り換えの駅という声が多くて、西九条という町自体の認知度が足りないところを諸々含めて、ゲストが町に降りた時にこういうことができる！というワクワク感がないのが弱みかな、と思いました。じゃあ、西九条で話題作りをすることで、どういうメリットがあるのかということをもとめた時に、例えば世界の注目観光地ランキングというのが去年発表されたんですけども、此花区がなんと四

位になったんですね。これは海外のリサーチ会社が調べた結果なので、海外の方から見た時に此花区が世界で四番目に魅力的な町だということが言われているんですよ。それはウチが此花区におりながらもっと発信できるチャンスなんじゃないかと思います。

USJの来場者数も今ディズニーシーを抜きましたし、今後もどんどん入場者数も増えてくるんじゃないかなというところで、玄関口である西九条はそういったお客様を連れてくる玄関になるんじゃないかなと思います。ただ、そういったイベントを仕掛ける時にネックになってくるのが財政ですよ、お金がどうしてもかかってくるので、それを賄うことができるのは地域の連携であったりイベントのアイデアというのが強いのかなと思っています。それで、僕なりに考えたアイデアというのが、西九条をエリア別に分けて町にテーマをつければ、海外から来たお客様も分かりやすいかなと思ったり、ユニバが近いから、千葉の幕張ではディズニータクシーがあったりとか、京都では観光タクシー、香川ではうどんタクシーがあるようなイメージでUSJタクシーを作ったり、バス停を整備する等のアイデアを資料に書いてみました。これらに一貫して言いたいのは、町を盛り上げたい。此花区を盛り上げたい。というところに思いがあるので、ここベースに、皆様のご意見を頂戴したいなと思い、今日は伺いました。」

A 「ありがとうございます。ゲストハウスはどこにあるんですか？」

B 「西九条の駅を降りて頂いて、セブンイレブン側に降りて頂いて、大きい通りの輝というたこ焼き屋さんの並びにあります。」

A 「何人くらい泊まれるんですか？」

B 「最大で76人泊まることができます。部屋数も42室あります。」

A 「ちなみにお値段はおいくらくらいなんですか？」

B 「一番安い部屋で2500円です。」

一同 「へえー！」

D 「安いですね！」

B 「部屋というよりも二段ベッドの一段を貸す、それで最大6人部屋なんです。個室もあります。」

- E 「割と海外とかに旅行に行ったときとかによくある？」
- B 「そうです。あれは民宿とかなんですけどね。」
- E 「だいたい稼働率って何パーセントくらいなんですか？」
- B 「今がやっと、60を超えて70に差し掛かっているところですね。」
- E 「何かのサイトとかに登録とかされているんですか？」
- B 「めっちゃしてます。ブッキングドットコムとか、ジャランとか。」
- A 「それ、お客さんはサイトを見て来られるんですか？」
- B 「そうです。」
- E 「けっこう連泊されるんですか？例えば拠点として一週間とか。」
- B 「一泊二泊のお客さんが多いです。」
- F 「私去年行って感動したんですけど舞洲のユリ園なんかもっとアピールしたら、あんなとこなかなかないし、知らない人も多いし。」
- B 「おっしゃる通りです。」
- A 「私も住吉区の間人なんですけど、此花区勤務になるまで西九条に降り立ったことがなくて、USJ はけっこう行っていたんですけど、西九条ってただ JR の桜島線から環状線に乗り換える経由地で、でも西九条のこと知ったらお店とかおいしいところがいっぱいあって、ユニバーサルシティ駅の近くのお店はすごく混んでるじゃないですか、わざわざそこで食べなくてもせつかく西九条を通るんだったら、まあ降りるのにお金はかかりますけど、降りてゆっくりご飯食べて帰るのもいいなって。たぶんみんな知らないんだと思うんですよ。」
- D 「知らないというよりははおっかないんだと思うんですよ。僕この仕事する前は営業マンで、いろんなところに出張したんですけども、観光ではないのでビジネスホテルに泊まるんですよ、都会じゃないところに泊まるとね、近所の飯食うとちよっと飲

むところとかコンビニですね、どこにあんねんって話になるんですよ。繁華街に行けば分かりますけど、分かんない町に来てちょっと地味なビジネスホテルなんかに行った時にこれって言ってもらえたらありがたいというのがあったんで、ちょっと背中押してあげると入りやすいというところがありますし、僕前転勤族やったんで、知らない町に2年か3年に一回住むんですわ。そうすると馴染みの飲み屋でも作ろうかと思うと、一から作んなきゃいけないと、いろんな店があって入るのがおっかないんですよ。チェーン店とかやったらね、誰でも入って誰でも飲むというところは入りやすいと思うんですけども、ポッと一人で行って町のおっちゃんなんか飲んでいるところに割り込んでいくのは度胸がいることなんでね、そういうところはいいところでもありますし、逆に僕が知らないところに行った時に入りづらいというのが必ずありますから、敷居が高いというか、いいところでもあり悪いところでもあるので、ちょっとうちの方でこういうのってやると、あ、このオーナーさん知ってはるんやね！ということで、行きやすくなるかもしれないですね。」

- E 「実際ターゲットを国内の人に、要は日本語の通じる方にするか日本語の通じない方にするか、僕も外国に行ったときに、ほんまに現地の言葉でしかしゃべられへんインドとかタイが好きで行っていたんですけど、英語が多少でも通用する店なのか地球の歩き方見ながら行くんですけど、まだ日本でもそんなにここ英語話せるよ！というお店自身の標識ってないですよ。みたいなのがあったら、外国の方も此花よく来はるんでポッと行かはるかもしれないですよ。」
- B 「例えばうちのゲストハウスにはショップカードという、お店の前にトリップアドバイザーとかがシールを張っているのってご存知ですかね、お店の前に『ロコミランキングで1位取りました！』みたいなシール、『ここ食べログで紹介されました！』みたいなシールをうちバージョンで作っているんですよ。そこにQRコードが張ってあって、それを読み取ればうちの情報が出てくるシールを作っています。もしそのシールをお店に張って頂ければその情報をお客様に伝えられるので、ここは英語しゃべれるとか、英語使えないというのを情報として載せておけば、お客さんも、ここは英語がしゃべられへんけど面白そうやしちょっと行ってみようかな、とか今日は落ち着きたいから英語が通じる店に行こうかなという判断材料にもなると思うので、おっかなさというのは情報がないことが怖いと思うので、それを解消するためのシールを今うちで作っています。」
- G 「西九条は交通の便が強いですわ、うちら春日出は弱いんです、ていうことはホテルのお客さんが春日出に遊びに来る時に足がないんです、海外だったらレンタル自転車が絶対あるんですわ、そういうサービスをする気はないのかなーと思って。」

B 「今ウチは4台自転車を持っているんです。」

G 「その稼働率は？」

B 「どんどん出てます。」

E 「昔、ラウンドテーブルでレンタルサイクルの話で盛り上がったことがあって、港と大正の区民ホール(センター)ではやっているんですよ。施設に自転車を置いて、何個かと提携して自転車の乗り捨てがやれるようにしているんですけど、僕今大正に住んでいるんですけど、大正って陸の孤島なんですよ、大阪市内やのに自転車なかったら移動できひんなんていう町なんです、電車が走ってない状況です。なのでレンタルサイクルを何十台か持ってて、けっこうな稼働率らしいんですけど、そんな話してた時に此花でもホテルとかゲストハウスとかいろんなところと手結んで、レンタルサイクルって乗り捨てできへんかったら値打ちないと思っているので、ほんならもっと広がるんじゃないみたいな話はしたことがありますね。」



G 「でも、この町は元に戻らんと出られへんからね。乗り捨てはできへんからね。レンタルサイクルは駅の近くが一番有難いかな。」

E 「せやからね、例えば歩いてどこか行かほる人らとかが帰りちょっと自転車で走りたいなというのは、僕は実際旅行行ったときにあったんですけど、借りたところに乗って帰らなあかんってけっこう面倒くさいと思うんですよ。それが提携してるここやったら乗り捨てできるよ、みたいなのがあったら・・・。」

G 「この町の形態は袋小路の島みたいなとこやから、絶対元に戻らんと困るいうか、一周してくるから。」

B 「確かに。レンタルサービスをウチがした時に、海外のお客さんだけじゃなくて、地域の方々もそれを使えるような仕組みにしまえばそれを乗り捨てる・・・」

E 「そうそう、デポジットだけもらって。ちょっと話が逸れるかもしれないんですけど、西成にね、違法駐輪を引き取って海外で販売する NPO 法人さんがあるんですよ、さっき言うてた大正区って自転車もすごく多いんですけど、乗り捨てもびっくりするくらい多いんですよ。大正会館ってあるんですけど、一年間で100台くらい自転車が乗り捨てられてるんですよ、ほんでまだ乗れる自転車があって、警察に先に盗難届出てへんか確認して、NPO 法人の方に連絡入れたら引き取ってくれるんです、そしてある程度修繕して販売するみたいなのをやってはるんですけど、そんなところからやったらけっこう格安で仕入れられたり、レンタル料だけ年間払って2～3年間のリース契約みたいなのをやったらかなり格安でいけるのかなと今思いました。」

F 「ウチの公団でも引っ越しする人がいてるから、そのまま自転車を置いて引っ越しをして、公団がシールをくれるんですよ UR の、んでその UR のシールを貼っていない自転車は期限までそのままだったら処分しますよっていうのがあるんですけど、それがどうなっているのかは知りませんが、聞いてみましょうか？」

B 「お願いします！」

H 「ユニバーサルの奥に自転車を集めているところがあって、ものすごい数ですよあれ。」

E 「あれって、管轄は大阪市さんなんですかね？」

C 「建設局だと思います。」

B 「Cさん、どうにかならないものですかね？」

C 「分からん。(笑)」

E 「でも、自転車は一つの案として面白いですよね！」

B 「めちゃくちゃいいと思います。」

G「最近ウチの商店街にも外国人のお客さんが増えはって、いろいろ店に障害が出てきてるんですわ。何軒かがタブレット買ってもらって、当然インターネットやってる人が多いから、そっからタブレットのグーグル翻訳で訳をするっていう。グーグル翻訳でやったらけっこう通じてるみたいやから、見ていて面白いけどね。あれやあったらいろんなベトナム語とかスペイン語とかも使えるでしょ。」

E「一回翻訳で外国の方が西九条で降りたいっていうのを言うてはって、翻訳してくれみたいなので向こうのスマホ見たら、『WEST NINE LINE』で、ほんまにこの英語は正しいんか、と思ったんですけど。」

B「むちゃくちゃや。(笑)」

E「実はウチも英会話の教室をやってるんですけど、今ようやと6人かな、意外に来てくれないんですよ。けっこう格安でやっているつもりなんですけど。だから日常の道を尋ねるとか、商売で使う言葉に特化して1 DAY でやってみるのも面白いかなと思いました。」

B「ウチのゲストハウスがオープンしてからなんですけど、昨日の時点でどれだけの方が宿泊されているのかを見たら、全部で6071人泊まってはって、その内25%が日本人、あとの75%が海外の方なので、4500人来てはるんですね。此花の町に魅力があると思ってもらえば、その4500人がこの町をうろうろするわけですよ。そうなれば英語が必要になってくると思いますし、足だったりそれぞれのコミュニティの連携が強くなれば町が盛り上がるのではという期待を持っているのですが。」

G「そのへんは特性ですわな、住んでる人が温かい、今中国人の方なんかは観光地に行かずに人が行かんところに行ってるのは、そういうのが分かってきたからやと思うから、別に春日出が観光地化する必要もないし、そのままを見せている方が自然でいいと思う。」

B「僕もわざわざ春日出を観光地化する必要はないと思っていて、ありのままの春日出が魅力的やよ、面白いよ、っていう発信をするツールとして地域の発信力が必要になってくるんじゃないかと思っています。」

H「ルート自体を、現状ある町中を歩くのは全然いいと思うんですけど、やっぱり観光客の視点で考えた時に、ある程度ルート化されている方が動きやすいっていうのはあり

ますね。春日出見に行きたいってのだったらこのコースおすすめですよ、って言った方が効率的に周ってもらえるんじゃないかなと。」

B「モデルルートみたいな。」

H「そうそう。」

F「最近出歩くようになって西九条のこと少し分かるようになってきて、私一つ感じたんだけれども、炉端焼き屋さんが多いのに女の人が入りやすい店が少ないんじゃないかと思って。居酒屋さんとかはやたらありますよね男の人がちょっと 1 杯飲むような。でも、女の人がちょっと入れるような喫茶店とかがほとんどないという。」

B「確かに。ウチのゲストハウスの1階がラウンジバー、ちょっとコーヒーが飲めたりお酒が飲めるんですけど、いい意味でも悪い意味でもちょっと浮いてるんですよ。そんなこじやれた雰囲気でもないから。ただそんなちょっと浮いた感じも海外の人からしたらウケがよかったり。せやから、下町感ある何も気取らないお店をウチから紹介できたら行きやすいんちゃうかなと思います。」

I「西九条付近のね、歩いていける範囲くらいの、昔もらったことがあるんですけど西九条の地図があってね、飲食店の晩御飯が食べれるところがありますよっていう情報が20件くらいかな、載ってる紙を配ってはるホテルがありましたよ。田舎の方やから歩いて行けるというよりはタクシーで行けるくらいの範囲やったと思いますけど、載ってるんはちゃんとしたお店ではなくて地元のおっちゃんとかおばちゃんとか地元の家族連ればかりが入っていく店ばかり載してある。そんなんを置いてるホテルが昔ありましたよ。それで電話して予約して行くっていうシステムにしているところありましたよ。泊まる方は晩御飯とかどうしてはるんですか？」

B「買ってきてウチで食べるか、ちょっとした軽食をだしたりはします。なんばとか観光地で食べて来はったりしますし。」

E「実際に此花に来て泊まる方って、此花を拠点にどこかにいきたい人ってということなんですよ？」

B「ユニバがでかいですね。」

J「海外ウケするお店って、此花にあるんですか？」

B「まあ、ですから古き良きお店とか・・・」

E「実際おっかなさというのが、情報の少なさによるおっかなさみたいなのが、それさえなかったらある程度外国人ウケするかせえへんかなんか正味のところきつと分かんない話ですよ。古き良き居酒屋が目的の方もおられたら、フランスとかあっちの方にもある店を好まれる方もおられるから、どれを好まれても、ここはご飯食べれるよ！メニューもある程度英語で表記されてて、どんな料理なんか簡単な紹介もあるよ、みたいな。」

H「実質どれくらいなんですかね、今此花区の情報を海外の人が知っているのって。ユニバーサルスタジオくらい？」

B「じゃないですかね。」

H「昔ね、三年くらい前に、ヨーロッパの人がよく来るノンリーブラネットでしたっけ、ミシュランとかの、地球の歩き方みたいなやつです。ツイッターとか微博とか一通り調べたんですよ、そしたらやっぱり大阪の中でもミナミとか北は何ページにも渡ってあるんですけど、此花区は2ページくらいで、此花区の歴史のこととかも一切書いてないです。それくらい少ないのかなと思うんですけど、此花の4位って何やったんやろって。」



G「ホテル側がホームページに、駅の宿の近くには大阪の中でも安くておいしい店がたくさんあるよ、って書きゃたくさん来はるから。店の宣伝です言うたらそれで嫌いうところはなから。」

H「分かんないですよ。ウチの商店街は外国人あんまり来てほしくないっていう人の意見も聞いているんで。観光局もマップとか作って活動しようかなと思った時期もあったんですけど、来られて困るお店もあるんで。」

G「商店街の話じゃなくてホテルの近くのレストランをホテルが紹介するんがいいかなと思って。」

E「でもまあ、西九条だけではなくて此花区全体で盛り上げていこうという話なのであれば、Hさんが言うてはったところもネックにはなってくる場所ですよ。此花バルの話でもちよろっと聞いたんですけど、地元の常連の人で賑わっているお店の形態もあるから、そこに他所から来ていつもの常連の人が来られへんようになるっていうのは、やっぱり心苦しいねんっていうお店もあるっていうのも聞いていたんで、その辺はなかなか難しいところもあるんでしょうね。」

G「オーナーの考え方による違いやから、そこは営業するもんが行って話をして、納得してもらわなければならないわな〜。」

E「でもね、僕もコミュニティの仕事させていただいてなかなか難しいなと思う時が、誰々さんという方はええやんけやれやれ！、でも隣に住んでは何とかさんはこらアカン、っていうお互いのぶつかりあいの調整みたいなのがやっぱりあるんですよ。善かれと思ってやったことが、結果として地域の軋轢を生むことになってしまったら結局何の意味も無いから、そのへんは本当に難しいところではありますよね。」

B「ウチとしては、ウチと協力したらお客さん増えるかもしれないですよ、無理そうなら大丈夫です、というような使い方してもらったらいいんですけど、それとは別に西九条から此花を盛り上げる取り組みをしたいと思っていて、さきほどのレンタルサイクルのような話をみなさんとしていたいなと思っていて・・・」

E「僕奈良で育ったんですけど、此花ってめっちゃ怖いイメージだったんですよ、ヤンキーがめっちゃおって、西九条の駅で降りたらカツアゲされるちゃうかって。中学校、高校の時なんかはそう思ってたんですよ。で実際ここで働くようになって、警察の方の話聞いたら、大阪市内で一番犯罪件数少ないんですけどね、実は一番安全な町やけど、じゃあ、どっからさっきのおっかなさの話じゃないですけど悪いイメージがついたんかなーと。昔はほんまに悪かったんかもしれないですけどね。」

F「響きはいいですね、このはなって綺麗じゃないですか。」

E「万葉集から取った名前ですからね。」

H「たぶん、水面下に怖いところあります・・・。」

E「たぶん大阪全域に何かしら怖いところって必ず存在してるような。」

G「十三の人間が此花に行く言うたら止めとけ言われたからね・・・」

F「心斎橋とアメ村なんかも全然違いますもんね、いてる人が。」

E「日本橋よく外国人の方いらっしゃるんですけど、裏入って島之内入っていったらヤーさんの事務所めっちゃくちゃあるんですね。やけど、そっちには確かに外国人行ってないですよ。堺筋から東側って行かないんですね不思議と。」

H「そういう情報ってどうやって出回ってるのか。」

B「ゲストハウスをネタにしてこういうイベントをやりたいとか、ネタを持たれているならばウチとしても協力したいですし、何かそういうアイデアとかありますか？」

E「地域行事とかのコンテンツに外国人の方参加されるんやったら、地域の夏祭りの行事とかを区役所にまちセンってあるんですけどそこがまとめているので・・・」

G「広報このはなに乘ってるよ、これこれ、これをA4くらいにまとめて貼っておけばみんな喜んで行きよるよ、盆踊りはフェスティバルや！言うたら。賑やかなの好きやから。」

E「あとはマップを作ってあげないと、初めて来た人に分かりづらいかな。」

H「だいぶゲストハウスも増えてきたし外国人も増えてきたので、一旦観光関係だけで話をするのもありかなと。」

F「此花の見るってどんどこなんですか？」

G「街並み。正味ヨーロッパに観光行ったらって見るとこないよ、みーんな街並み。」

E「たぶん神社と違って外国人の方からしたら一つの観光資源になるんでしょうね。前回の住吉神社さんで結婚式挙げはった話みたいな時に、たまたま外国人の方が出くわしたらワンダフォーってなるでしょうね。」

F「今高野山なんかも外国人が多いらしいですね。」

B「高野山にゲストハウスが一個あるみたいなんですけど、ずっと稼働率が高くて・・・」

F「高野山は日本人より外国人の方が割合多いって・・・」

E「奈良公園がそんな状況ですね。奈良公園たまに行くんですけど、鹿と戯れている九割が中国人の方とか外国人の方ですからね。でも、ほんま同じ思いの方らとウチが繋がれたらいいなと思いますけどね。」

B「同じ思いを持ってる方が集まって、マップを作ったりいろんな発信をしていきたいとなった時に、みなさんにお声かけをさせて頂くというのも・・・」

E「それは全然もう、ノれる人はノってくるし、ノられへん人はノらないし。」

H「ネックが予算ですね。」

E「投資と捉えていただけるのか、それとも何かしらで生み出さなければならないのか。今大阪市さんも観光に力入れてはるんですかね。」

H「観光局。」

E「観光局さんが力入れてはるんですかね。そんなところの助成とあってありそうじゃないですか？」

H「ないんです。それがあのかなと思って観光局行って話聞いたんですよ、ないですね。」

F「千日前の商店街がミニイベントをやっているんですよ、例えばかまぼこ屋さんやっていたり、シューマイ屋さんやっていたり、そこの職人さんがシューマイの包み方教えるみたいな。で、小さい子どもさんがいてるとこは小さな託児所みたいながあって子どもさん預かって、お母さん達はそこで。外国人の方は私たちから見たら安い着物で

すけどそれを着て、でも外人さんが着たらそれなりに似合ってるんですけど、それを着せ付けて心齋橋通りを歩くみたいな。」

I「外国の方って、和服とか着るのが好きなんですかね。」

B「好きです。ウチレンタルで貸し出してるんですよ。」

C「朝日にレンタル着物屋さんがあるんですけど、ご存じでしょうか？」

J「椿庵さんですよ。」

C「はい。」

F「私、昔梅田の学習センターでボランティアしてたんですけど、そこのスタッフさんがどういうイベントを企画するか悩んでいて、外国の方がよくテレビで浴衣着て喜ぶんですよ、私着物の着付け講師をしてるので、よかったらお手伝いしますよ。って言ったらそれやります！って言って。ゲストハウスで着付けするくらいなら私お手伝いします。」

H「区民ホールを使って、和物の体験教室とかって。」

E「ウチでやるんやったら、箱物とかも全然お貸しするし周知とかもさせてもらうんですけど、モノを持ってきてもらわないといけないんですよ。基本的に講師さん側でモノを準備してもらわなあかんのですよね。」

A「ゲストハウスで着物を着るのは、着物の着方とか説明を置いているんですか。」

B「いや、めちゃくちゃ簡単な着物なので。」

F「だんじり太鼓の体験とか。体験型がいいんじゃないですかね。」

B「此花に来たら、日本昔ながらの体験もできますよ、って売り方もできるということですね。」

G「逆に大阪市内でこんなにたくさん祭りやっているとこないもん。そういうところ生かしていかんともったいないで。」

B「福島区って最近おいしいお店とかこじやれたお店が増えてきていて、堀江とかは若者の町というイメージもありますし、そういうそれぞれの町の魅力を此花区として何か一つ持てば、例えば日本昔ながらの体験ができる町のような、そうすれば此花の下町感ともズレてないし。」

F「いろいろできる人に登録しといてもらって、参加してもらいたいのは大阪市がやっていますよね。」

「昔ね、アーティストが集まるサイトっていうのを大阪市が作ってたんですよ、それに登録してた人ね、仕事が全然回ってこないんですよ。」

F「ボランティアとかにすれば？」

H「ただね、それをボランティアにしてしまうと観光局自体がダメになっていくんですよ。だからある程度きっちりお金もらってそれなりのものを提供して、此花区にお金が落ちるとかしなければ、此花区のボランティアだけでそれをやってしまったら現状収益を上げているところが、何で此花区はそんなことをするんだってなりますよ。」

G「ホテルのHPに盆踊りの情報とか載せたらそれで情報が広がる、拡散させていかんと今の時代。この日にウチ泊まったなら近くで盆踊りやってまっせ。ていうのを情報として載せておくんよ、盆踊りって何？ってなったらダンシングフェスティバル言うたら見に行こうってなるもん。」

E「後はもし配慮されるんやったら、祭りの主催者側に受け入れられるキャパシティがあるかどうかっていうのは気になってくるんやと思うんですね。模擬店やってはるところとかで、みんな日本語ベースやと思うんで、そこでトラブルが起きひんよっていう配慮はゆくゆく必要になってくるやろうなって。」

F「いきなり大きいとあれやから、小さいのからやったらいいんじゃないですか。」

H「そうですね、あと3年くらいは地味にやりながらの方がいいのかもしれないですね。一番外国の方に慣れているのって梅香やと思うんですよね、千鳥橋もそうですけど、その辺は外国人の方多いから勝手にPRするのもいいかもですね。」

F「やっぱり日本にせっかく来たから何か体験して帰りたいっていう外国人が増えてきて

るんじゃないですかね。」

H「此花区も観光資源はたくさんあると思うんですけどね、まだそんなに認知されていない感じがしますね。今日京都に行ってきたんですよ、最近此花も外国人増えてきたなと思ってたんですけど、京都はアホほど外国人いました。やっぱり京都すごいなと思いました。」



E「こないだ貴船に遊びに行ったんですけど、嵐山電車やったかな、そんなメジャーなところやないやろって思ってたんですけど電車の半分外国人でしたからね。やっぱものすごく探して来はるんやと思うんですけど、どこから探して来ているのか、情報のソースってどこなんやろって思うんですけど、地球の歩き方みたいなんに書いてあるんか、ウェブとかで口コミ的に広がっていつているのか、そこはいつも何なんやろなって思いますね。」

B「十中八九口コミですね、トリップアドバイザー。」

H「さっき聞いたかったんですけど、ゲストハウスで着物レンタルされているじゃないですか、それはどこで着てるんですか？」

B「そこで着てます。」

H「あ、中で着ていて、外に出歩く訳じゃないんだ。この町を着物着て歩くのはさすがに違和感ありますね。(笑)」

E「淀川の花火大会なんかではこの町の若い女の子らも浴衣着て出歩く訳じゃないですか、

まあ非日常というイメージさえあったら本人的には浴衣を着て出ていくことに対しての違和感はそのないにないんじゃないですか。」

H「ユニバの格好とかしてますもんね。」

E「ユニバの格好を日常でせい言うたらしないとおもうんですよ(笑)」

H「僕らは日常になってしまってますけどね。」

E「外国の方なんかは非日常で旅行に来ている訳やから、外に浴衣を着て出ていくことに関してはそんなに違和感はないでしょうね、着さえすれば。此花区民には違和感あったとしても、それがどんどん、あー今日も外国人の人が浴衣着てるわみたいな、日常風景になっていったら、ほなこういうサービスやった方がいいんじゃないみたいな案も生まれてくるでしょうね。」

H「ちなみに受付の方は浴衣を着てはるんですか、ゲストハウスの。」

B「着てないです。」

F「どっかの銀行が七夕の日に浴衣を着てますよね。京都だったか、窓口で。」

E「市役所とかもお正月は浴衣着てるところありますよね、大阪はやってはるところあるんですかね。」

F「国会議員とかも着てますよ。」

H「和歌山の白浜はこの時期みんなアロハシャツ着てますよ。」

A「せっかくゲストハウスに浴衣があるんだったら、それを着て外に出るのもいいですよ
ね。」

B「例えば浴衣を着てお店を来店すれば割引できるみたいなサービスをすれば、浴衣を着て出歩く人が日常になりますよね。」

E「浴衣も正味夏限定ですけどね。まあ、2カ月で盆踊り18個あるということは、単純に3日に一回は浴衣を着ているということになりますからね。」

G「だから、大阪でも珍しい、祭りの多い町やで一っっていうのをアピールしたいよね。」

E「此花に長いこと住んではる人でも、全部制覇したという人はそういないでしょうね。ちなみに外国の方って何時くらいに戻って来はるんですか？」

B「人によりけりですね。この時間に出るの？っていう方もいますし。」

E「西九条って夜中閉まっていますよね？眠らない町、じゃないですよ。」

I「寝てますよ。(笑)」

B「早めに帰って来られて、次の日に備えられる人も多いですし、本当に人それぞれという感じです。」

A「では、もう8時半なので、今日は西九条の町おこしということで、いろいろ案が出たと思うんですけど、このラウンドテーブルってお話ししたいとか、何かしたい！という思いを持たれている方が多いと思うので、また機会があったら来て頂いたらな、と思います。」

一同「ありがとうございました。」

抜粋終わり

以上、参加して下さった皆さん、ありがとうございました！